東海学園大学
図書館だより

2019年10月1日発行（通巻99号）
https://www.tokaigakuen-u.ac.jp/lib/

名古屋キャンパス図書館
〒468-8514 名古屋市天白区中平2-901
TEL (052) 801-1528 FAX (052) 804-1192

三好キャンパス図書館
〒470-0207 みよし市福谷町西ノ洞21-233
TEL (0561) 36-6755 FAX (0561) 33-0165

特集　オリンピック・パラリンピックを支える人たち

東京オリンピック・パラリンピックの開催が、いよいよ来年（2020年）に迫ってきました。どんな大会になるのか、今から楽しみにしている人も多いと思います。
ところで、オリンピック・パラリンピックには、大会を支えるさまざまな人たちがいることを知っていますか?
選手として参加したり観客として楽しむ以外にも、実は大勢の人たちがオリンピック・パラリンピックに携わり、大会を支えています。
今回の特集では、そんな「支える人たち」に焦点をあててみました。私たちには見えないところや意外な部分で大会を支える人たちをご紹介します。

オリンピックと私

スポーツ健康科学科　林　享

私が水泳を始めたきっかけは、両親が競泳選手であったため、物心がつくころには、家族で海や川で泳いでおり、水泳は生活の一部としてありました。そのような中、小学校4年生からスイミングスクールに入り本格的にトレーニングを始めました。そのスイミングは、屋外のプールでトレーニングを行っていたため、水面に氷のはるような寒い冬のシーズンでも水の中に入り、厳しい指導を受けていました。そのため、子供の頃の水泳に対する思い出は、早く水泳をやめたいと思っており、水泳が大嫌いでした。そのような時、中学に進学した際に父の転勤で引っ越すこととなり、新しいスイミングで泳ぐことになりました。引っ越した先のスイミングは室内プールで年間を通して暖かい水で泳げ、コーチの指導も選手主体の練習であり、楽しく取り組めました。そのことにより、大嫌いだった水泳が大好きに変わり、苦しい練習も楽しく取り組めたため、100m平泳ぎの記録が半年で20秒も伸び、全国中学生大会では6位に入賞するまでになりました。

その後、順調にタイムを縮めることができ、3度のオリンピックに出場することができました。世界ランキング1位になることもあったため、オリンピックでの目標はメダルを取ることでありました。しかし、バルセロナオリンピックの100m平泳ぎで4位に終わってしまい、メダルが取れなかったことを今でも悔しく思っています。

ただ、そこまで戦い抜けたのは、支えてくれたチームメイト、スタッフ、ファン、家族、友人があったからだと思っています。当時はキャプテンもさせていただき大変でしたが、周りの支えてくれた方々によって良い経験をすることができました。競泳は、個人競技でもありますがチームスポーツでもあるなと考えさせられ、自分を見つめなおすことができ、大きく成長することができた機会でもありました。

来年、東京オリンピックが開催されます。是非、出場する選手たちは、自分一人で競技をしているのではなく、多くの人たちの支えによって競技ができることに感謝しながら、その競技を楽しみ、スタート台に立ってほしいと思います。今後、私もこれまでの経験を活かして、選手が毎日練習に来ることが楽しみになるような指導、一人でも多くの選手の支えになるような指導を行い、いつかオリンピック選手を育てたいと思います。

特集:オリンピック・パラリンピックを支える人たち

（特集中の敬称略）

★先達者たち

オリンピック・パラリンピックの開催・参加が当たり前ではなかった時代に、力を尽くした人を紹介します。

『中村裕:
日本のパラリンピックの父』
佐野慎輔文；しちみ楼絵
小峰書店 2019

中村裕　日本初 障がい者スポーツの扉を開けた医師

障害者スポーツの振興と障害者の社会復帰に大きな貢献を果たした人物。
整形外科医であった中村医師はリハビリテーションの研究のためにイギリスへ渡る。リハビリにスポーツを取り入れる治療を学び、それに衝撃を受け、日本で障がい者スポーツを広めるのに尽力。1964年東京パラリンピックを開催するために奔走し、同大会では日本選手団の団長を務めた。翌年には障がい者の自立と就労を支援する「太陽の家」を設立。愛知県蒲郡市にも2番目の事業部として、同施設が1984年に設立された。作家である水上勉もまた、脊髄に障害を持つ娘を通じ、支援活動を続けた。

フレッド・ワダ・イサム　東京オリンピック招致の協力者

1949年の全米水泳選手権大会に戦後初の日本選手団が渡米する際、自宅を宿舎として提供した。以後スポーツを通した日米親善に貢献。東京オリンピックの招致活動でも私財を投じて中南米諸国を飛び回って尽力するなど日本スポーツ界の恩人といわれる。84年ロサンゼルス五輪組織委員会の理事としても活躍。

『祖国へ、熱き心を:フレッド・和田勇物語』（上、下）
高杉良著
世界文化社　1990

『ピエール・ド・クーベルタン
過去、そして現在』
ミヒャエル・ディットリッヒ監修
日本オリンピック・アカデミー c2013

ピエール・ド・クーベルタン
古代オリンピックを復興させ近代オリンピックの基礎を築いた創立者。

フランスの教育者。自国の教育改革のためにスポーツを取り入れる必要性があると考え、古代オリンピックの近代における復活こそスポーツ教育の理想形として思い描き、様々な働きかけによりオリンピック競技の復活をはたした。オリンピックのシンボルとして知られる五輪のマークもクーベルタンが考案したもの。

『嘉納治五郎：私の生涯と柔道』嘉納治五郎著
日本図書センター 1997

嘉納治五郎
日本最初のIOC委員

明治～大正期の教育改革に貢献した教育者で講道館柔道の開祖。「柔道の父」と称される。フランス大使より1912年ストックホルム大会への参加と日本オリンピック委員会の設置を要請され、IOCの委員となった。その後1940年大会の日本開催に名乗りを上げたが、戦火の拡大からやむなく中止をよぎなくされた。嘉納のスポーツ文化に身体と心を練る武道精神を取り入れる思いは1964年東京大会に受け継がれた。

『伝説のオリンピックランナー
「いだてん」金栗四三』
近藤隆夫著　汐文社 2018

『人見絹枝:炎のスプリンター』
人見絹枝著；織田幹雄, 戸田純編
日本図書センター 1997

【選手】にもこんな人達がいました

大河ドラマ「いだてん」のモデルにもなった

日本初五輪選手　金栗四三 ／ 日本初女子メダリスト　人見絹枝

金栗四三は1912年ストックホルム大会に初の日本人選手として出場後、1920年アントワープ・1924年パリ大会と三度のオリンピックに出場した。成績は振るわなかったが、一線を退いた後も日本のマラソンの普及に力を注ぎ、1920年第1回箱根駅伝の創設にも尽力した。
人見絹枝は幼い頃より運動が得意で岡山県高等女学校時代走り幅跳びで日本記録を出し、陸上競技選手としての人生を歩き始める。1928年アムステルダム大会には全競技に出場し、急遽練習もしていない800mに挑戦し2位という成績で見事日本人初のメダリストとなった。

★選手とともに“闘う”人たち

指導や心身のサポートを通して選手とともに闘う人たちがいます。

【監督】 監督の仕事は、チームや選手に関わるさまざまなことを取りまとめること。選手のコンディションや相手の状況を冷静に判断し、戦術を練ります。また、選手の指導、選手交代の指示、選手を励ますなど、選手1人ひとりの気持ちをふるいたたせたり、チーム全体を勝てる雰囲気に盛り上げたりするのも、大切な役割です。

女子バレーボール監督　真鍋政義

セッターとして活躍し新日鐵黄金時代を築いた。1988年ソウルオリンピック出場、イタリアセリエAに挑戦するなど様々に活躍し2005年に現役引退。2010年世界選手権では32年ぶりの銅メダル。2012年ロンドンオリンピックでは28年ぶりとなる銅メダルをもたらした。iPadを手に緻密なデータ分析をしながら指示を出す「IDバレー」で知られる。

『逆転発想の勝利学』
真鍋政義著
実業之日本社 2012

あなたは何人知っていますか?

◎佐々木則夫（女子サッカー）
◎小出義雄（女子マラソン）
◎井上康生（男子柔道）
◎三宅義行（女子ウエイトリフティング）
・・・など。

■スポーツアナリスト（裏方として活躍）
スポーツのパフォーマンス向上に必要なデータや情報を収集・分析し、選手やコーチに資する情報に加工して提供する仕事。収集・分析を元にした戦略構築が勝利を左右することも。詳しくは日本スポーツアナリスト協会（JSAA）のホームページを見てください。

『伸びる人のデータの読み方、
強い組織のデータの使い方』
渡辺啓太著
日本文芸社 2013

【コーチ】 自分の専門分野で、選手に技術指導を行うのが仕事。また、監督が立てた戦略や戦術を選手に指示したり、練習環境の整備やスポンサーとの交渉など、さまざまな面で選手を支えます。種目によっては監督がコーチを兼ねる場合も。

【トレーナー】 選手が常に最高の状態で競技できるようにサポートするのが仕事。健康や体調の管理、トレーニングメニューの作成や指導を行います。また日頃の栄養指導やメンタルケア、試合中のケガに対する応急処置、リハビリなど幅広い場面でのサポートが求められます。

■いろいろなトレーナー
一口に【トレーナー】といっても、実はさまざま。専門によってメンテナンス系、トレーニング系、メンタル系、栄養系などの種類があります。1人ですべてのサポートを行う場合もありますが、日本を代表するようなチーム・団体になると、各部門で専門的なトレーナーがサポートします。チームを組んで個人をサポートすることも。

女子ゴルフコーチ　服部道子

愛知県日進市出身のプロゴルファー。1984年に15歳で日本女子アマチュア選手権優勝、1985年に全米女子アマチュア選手権を史上最年少（当時）で日本人初の優勝。1998年には年間5勝を挙げ、賞金女王に輝いた。日本ツアー通算18勝。2020年東京オリンピック日本代表の女子担当コーチに就任が決定。

ほかの【コーチ】は・・・
◎金哲彦（マラソン選手の有森裕子、高橋尚子などを指導）
◎久世由美子（リオオリンピック競泳銅メダルの松田丈志選手を支え続けた）など。

【トレーナー】は・・・
◎高畑好秀（50名以上のオリンピック選手をメンタルトレーナーとして指導）
◎小泉圭介、田村尚之、桑井太陽（競泳の北島康介選手を支えた「チーム北島」メンバー）など。

『金哲彦のマラソン練習法がわかる本』
金哲彦著　実業之日本社 2015

『夢を喜びに変える自超力』
松田丈志, 久世由美子著
ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017

『勝負を決する!スポーツ心理の法則』
高畑好秀著
体育とスポーツ出版社 2011

『北島康介トレーニング・クロニクル』
小泉圭介著
ベースボール・マガジン社 2017

“支える人たち”

【シューズ職人】 日常で使用する足袋や革靴で競技していた時代から進化を重ね、通気性や衝撃保護さらには推進力まで担うシューズが登場しています。進化の陰にはトライ&エラーを繰り返し、改良を重ねてきた人たちの努力があります。

◎鬼塚喜八郎
（スポーツ用品メーカー「アシックス」創業者）
◎河野光裕（陸上・末續慎吾選手のシューズを担当）
◎三村仁司

『オニツカの遺伝子』 折山淑美著
ベースボール・マガジン社 2008

『陸王』 池井戸潤著 集英社 2016

■感謝
2004年アテネオリンピック女子マラソンで金メダルを獲得した野口みずき選手は、レース後に三村さんがつくったシューズにキスをして感謝の気持ちを表しました。

【通訳】 競技選手やスタッフのコミュニケーション・サポートをする「スポーツ通訳」、外国人選手が安心して治療をうけられるようサポートする「医療通訳（士）」、外国人観光客への観光地・文化案内や、旅行中のサポートをする「国内ガイド通訳（通訳案内士）」などさまざま。パラリンピックでは「手話通訳」「要約筆記（パソコン通訳）」なども。
公式に有給で働く場合と、ボランティア（無償）の場合とがあります。

『通訳になりたい! :ゼロからめざせる10の道』
松下佳世著 岩波書店 2016

同時通訳の草分け的存在 長井鞠子

大学2年生だった1964年の東京オリンピックではじめて通訳の仕事を経験。1998年長野冬季オリンピックでも通訳を務め、2020年東京オリンピックの招致活動でも通訳として活躍した。

ほかの【通訳】は・・・
◎島田晴雄（1964年東京オリンピック・トップ通訳）
◎池田裕佳子（車いすマラソン通訳） など。

【カメラマン】 選手たちの活躍を写真で伝えるのが仕事。スポーツを専門に撮影するカメラマンも。動いている選手を撮影するための技術だけでなく、広い競技場のどこから撮るのかや、レンズ選択などさまざまなことを考える必要があります。（2020東京大会では4K・8Kの機材が投入されるので、映像の美しさにも注目!）

2020東京大会フォトチーフ 青木紘二

2020東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会フォトチーフ。写真エージェンシー・アフロ及びアフロスポーツ創設者。夏季及び冬季のオリンピック取材は合わせて17回に渡り、1998年長野オリンピックでは、オフィシャルフォトチームのリーダーとして活躍した。

『リオデジャネイロオリンピック
日本代表選手団』アフロスポーツ,
AP, REUTERS
撮影: アフロ 2016

ほかの【カメラマン】は・・・
◎岸本健（50年以上オリンピックを撮影。日本初のスポーツフォトエージェンシーを設立）
◎Adam Pretty（Getty Imagesの専属フォトグラファー）

【スポンサー企業】 オリンピック・パラリンピックに対して広告やPRを目的に金銭を支出する企業のこと。スポンサーには4つのランク ①ワールドワイドパートナー（契約先は国際オリンピック委員会（IOC））②ゴールドパートナー、③オフィシャルパートナー、④オフィシャルスポンサー（契約先は日本オリンピック委員会（JOC））があります。スポンサーになれるのは限られた企業のみのため、スポンサーになれること自体が名誉であり、信頼のおける優良企業の証となります。

知っている企業はありますか?

◎コクヨ（オフィス家具・文具）
◎アース製薬（家庭用殺虫剤など）
◎乃村工藝社（内部・展示空間のデザインなど）
◎モリサワ（フォントデザイン&開発サービス）
◎KADOKAWA（書籍・雑誌の出版）
・・・など。
オリンピックで76企業、パラリンピックで73企業がスポンサーになっています（延べ数、2019/07/05現在）

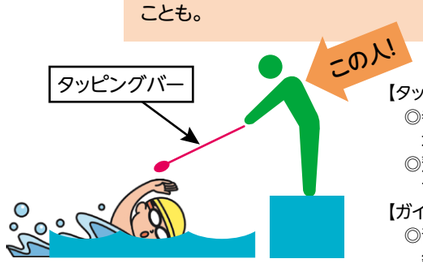
パラスポーツ

では、障がいのある選手たちが最大限の力を発揮できるよう、さまざまなサポートがあります。このページでは、パラリンピック選手を“支える人たち”にスポットをあててみました。

イラスト:RICHOプリントアウトファクトリー、ビジソザbsoza.com

【タッパー】 視覚障がいのある水泳選手にタッピングバーで触れて、壁が近づいていることを知らせる人。全力で泳いでくる選手にタイミングよく触れるのは至難の業。選手との信頼関係とタッパーの技術が勝負を分けることも。

【ガイドランナー】 陸上競技で、視覚障がいのある選手をゴールまで誘導する人。選手の進むべき方向、残りの距離などを、ガイドロープや声を使って選手に伝えながら伴走します。ガイドランナーが選手よりも先にゴールした場合、その選手は失格となります。

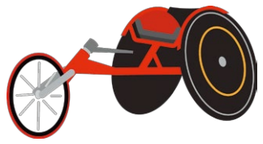


【タッパー】
◎寺西真人（リオパラリンピック競泳銀メダリスト・木村敬一選手のタッパーを務めた）
◎鷲尾拓実（東京パラリンピックでメダルが期待されている競泳・富田宇宙選手のタッパー） など。
【ガイドランナー】
◎青山由佳、堀内規生（リオパラリンピックのマラソン銀メダリスト・道下美里選手のガイドを務めた） など。

【競技用車いす】 日常生活で使用する車いすとは違い、競技の特性に合わせて進化したのが「競技用車いす」。回転性・敏捷性や、軽さ・耐久性などが求められるため、製造には高い技術力が必要となります。プレー中の巧みな車いす操作（チェアスキル）も見逃せません。

■競技別 車いすの紹介「ここがポイント!」
競技によってかなり違いがあります。ここでは特徴的な3点を紹介します。

陸上用（レーサー）



・2つの大きな車輪と1つの小さな車輪で構成され、前後に細長い形
・背もたれがない
・方向を操作するためのトラックレバー付き。

ラグビー用（攻撃型）

・タイヤはスポークカバーを付け、タックルからの保護やひっかかる部分を減らす。
・コンパクトで丸みを帯びた形状で、小回りが利く。

日常生活用

・背もたれに寄りかかりやすい
・肘置きや介助者が押すためのグリップが付いている。

バスケットボール用

・競技中にパンクすることがあるため、タイヤは簡単に着脱可能。
・他の車いすにひっかからないようにバンパーがついている。

車いす製作の“職人”が集う企業

◎オーエックスエンジニアリング
斬新なデザインと高い機能性、オートバイ製作で培った操作性や軽量化のノウハウを応用した「スポーツ用車いす」は、国内有数のシェアを獲得する。

◎松永製作所（岐阜）
1974年の創業以来、車いすメーカーとして確固たる地位を築き上げてきた。2000年代以降はスポーツ用車いす分野でも頭角を現しはじめ、特にバスケットボール用車いすで多くの代表選手から絶大な支持を得ている。

◎日進医療器株式会社（愛知）
創業者が1964年の東京パラリンピックで、車いすを自在に操り活躍するアスリートたちの姿に感動し、車いすの製造を開始。日本初のオーダーメード車いすの製造を始めた。

『デザイン思考がビジネスを革新する』
デザイン&ビジネスフォーラム編
ダイヤモンド社 2007

『車いす生活に夢を与える仕事人』
さらだたまこ著
教育評論社 2012

★選手村の“食”人たち

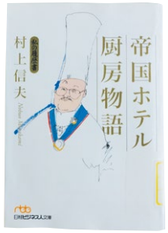
選手村では選手の食事はもちろんのこと、メディア関係者、選手に携わるコーチやトレーナー、オリンピック・パラリンピック関係者など様々なニーズに合わせた食事を提供しなければなりません。世界中から訪れる様々な人に日本食の魅力を発信し、日本の食文化について知ってもらうことも重要な役割となっています。

【栄養士・料理人・調理師】

栄養士とは、食や栄養に関する正しい知識や技能を備え、人々が健康に過ごせるよう栄養管理や栄養指導をする人のことで、資格としては「栄養士」と「管理栄養士（国家資格）」の二種類があります。また、料理人・調理師は食物の調理をする人のことですが、調理師は国家資格である調理師免許が必要になります。

男子食堂「富士」料理長　村上信夫

1964年東京オリンピックの選手村には複数の食堂があり、それぞれにいろいろなホテルから選ばれた料理長がいた。食材の供給を一手に担うサプライセンターのトップに日活ホテルの馬場久が、男子食堂の「桜」に第一ホテルの福原潔が、同じく男子食堂の「富士」に帝国ホテルの村上信夫が、女子食堂にホテルニューグランドの入江茂忠が任命された。
料理を大量に供給するために、当時海外で普及し始めていた食材の冷凍保存に目をつけたのが村上シェフで、冷凍食品で有名な「ニチレイ」と共に研究を進め、積極的に冷凍食材を使用した。それは、その後の日本における冷凍技術の普及を後押しすることに繋がった。



『帝国ホテル厨房物語：私の履歴書』
村上信夫著
日本経済新聞社 2004

■塩を足せ!
選手村では、全てのアスリートがベストな状態を保つための食事提供が求められます。アスリートの食事は一人平均6,000Kcalで一般人の2倍に相当しますが、1964年東京大会ではそれを毎食約1万人分提供していました。レシピも100以上に及び、それらは全国から集められた料理人たちに共有されました。同大会での料理は好評で、残ったことは一度もなかったということです。ただ、開村後しばらくしてある選手の一言から、暑い盛りに運動している選手には、そのままでは塩分が足りないと気づいた村上シェフは、必ず最後に一握りの塩を足すよう指示をだしていたそうです。

他にもこんな人が活躍しています。

料理人　三國清三

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問を務める。
村上シェフの推薦により20歳で駐在スイス日本大使館の料理長となり、現在は料理界の文化発展に力を注いでいる。また子供の食育活動や、復興支援活動「子どもたちに笑顔を!」というプロジェクトを継続している。

『三國清三シェフの
味覚の授業：KIDSシェフ』
本多由紀子編・著
小学館 2004

管理栄養士・スポーツ栄養士
川端理香

元日本オリンピック強化スタッフの管理栄養士として活躍。

『筋肉の栄養学: 強いからだを作る食事術』
川端理香著
朝日新聞出版 2019

管理栄養士・スポーツ栄養士　亀井明子

公益社団法人日本栄養士会2020年東京オリンピック・パラリンピック栄養支援推進委員会委員。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの選手たちを、栄養管理の面から支えた。

■選手村への供給野菜は圃場（ほじょう）視察も
1950年代当時日本ではまだ野菜を生食する習慣が少なく、海外からは日本の野菜は発酵未処理のし尿を肥料に使っているので食べられないと批判されていました。1964年のオリンピック時には、化学肥料も普及し日本の家庭にもかなり生食が定着していましたが、海外のイメージはまだまだ変わっておらず、各国の担当者たちを高原野菜を育てている長野の農園に連れて行くなどして誤解を解くことも、料理長たちの仕事のひとつでした。

★デザインする人たち

競技場やオリンピックのロゴ、聖火トーチ、ユニフォーム・・・。さまざまなものを「デザイン」する人たちがいます。

【ピクトグラム】

情報や注意を示すために表示される視覚記号の一つ。言葉が解らなくても見ただけで理解出来るようにデザインされています。1964年東京オリンピック以来、競技ピクトグラムは都市ごとにデザインを変えながら、今も使われ続けています。

廣村正彰　2020東京オリンピック、パラリンピックのスポーツピクトグラムをデザイン

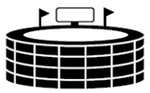
デザインにあたり、主役であるアスリートたちの鍛えあげられた身体、その躍動を表現したいと考え、膨大な量の写真や映像を見て研究したとか。

■トイレのピクトグラムは日本製!?
「世界各国から日本を訪れる人たちに、言語表示なしで施設や場所などを案内できる方法を」という思いから、1964年東京オリンピックでは数々のピクトグラムが作られました。例えば有名なのがあの「トイレ」表示。あれも、その時日本のグラフィックデザイナーたちによって考え出されたものです。それが今でも日本だけでなく多くの国や地域で「トイレ」表示として使用されているのです。

1964東京オリンピック
当時の「トイレ」表示
ピクトグラム

ピクトグラム　デザインメンバー

勝美勝、田中一光、山下芳郎、瀧本唯人、宇野亜喜良、福田繁雄、江島任、植松国臣、横尾忠則、原田維夫、木村恒久



【新国立競技場（オリンピックスタジアム）】

東京2020オリンピック・パラリンピックの開・閉会式のほか、陸上競技やサッカーが行われる場所。大会後は各種スポーツ・文化関連イベントに使用予定です。1964年東京オリンピックのスタジアムであった国立競技場と同じ場所に建設されています。

隈研吾
新国立競技場デザイン設計

1964年東京オリンピックで見た代々木屋内競技場に衝撃を受け、建築家を志す。1990年隈研吾建築都市設計事務所設立。国内外でさまざまな賞を受けている。木材を使うなど「和」をイメージしたデザインが特徴的で、「和の大家」とも称される。今回のスタジアムも「杜のスタジアム」と題し、小径木（しょうけいぼく）の集合体としてデザインされている。

■愛知県内にある主な“隈研吾”作品
◎両口屋是清東山店
◎華の種（大府パーキングエリア）
◎大地の種（阿久比パーキングエリア）
◎碧海信用金庫御園支店
◎御園座
など

（写真提供:御園座）

『なぜぼくが新国立競技場をつくるのか』
隈研吾著　日経BP社 2016

吉岡徳仁
聖火トーチ企画・デザイン

2020東京オリンピック・パラリンピックのトーチは、日本人に最もなじみ深い桜がモチーフに。

『デザイナー吉岡徳仁の仕事
（プロフェッショナル仕事の流儀）』
NHK制作・著作　NHKエンタープライズ 2008

【聖火トーチ】

聖火を運ぶ道具。聖火はオリンピア遺跡で採火後、ランナーによって日本全国を周り、開会式当日、聖火台に点火されます。聖火トーチには見た目の美しさはもちろん、軽さや強度、雨風などの悪天候でも絶対に消えない耐久性も要求されます。

オリンピック・パラリンピックと東海学園大学

本学では、オリンピック・パラリンピックに関連する様々な取り組みを行っています。
また、オリンピック・パラリンピックを目標にがんばっている在学生・卒業生をご紹介します。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた大学連携協定

東海学園大学は、2014年に大会組織委員会と連携協定を締結しました。その具体的事業のひとつとして、愛知県教育委員会と連携して、2020年東京オリンピック・パラリンピックあいち選手強化事業「次世代につなぐスポーツ人材育成事業」を三好キャンパスで実施しています。ちなみに、愛知県とは2015年に「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結しています。

スポーツ健康科学部では、オリンピック教育として学部行事「とうがく競技祭」を開催しています。

食を通して東京オリンピック・パラリンピックに参加するアスリートを応援しよう!

2019年オープンキャンパスで管理栄養学科の展示が行われました。今年は他にもスポーツ栄養に関するイベントを中心に企画しているそうです。以前にも「東京オリンピックと食のおもてなし」や、「2020年東京オリンピック開催に向けて食の“おもてなし”について考えよう」というイベントを行うなど、東京オリンピック・パラリンピックを意識した展示や講座が開催されました。今回は筋力アップの食事や持久力を高める食事、たんぱく質の働きについて等、アスリートに欠かせない栄養を様々な角度から取り上げた展示をしていました。また世界地図の模型に旗をたて、それぞれ各国の郷土料理なども紹介していました。

“パラスポーツを知ろう”コーナー

2020年オリンピック・パラリンピックへの関心が高まっていることをうけて、パラリンピックやパラスポーツに関するパンフレットやガイドブックなどを集めたコーナーを設置しました。パラリンピック大会や障害者スポーツについて、またそれぞれの競技について、わかりやすくまとめられた数々の資料を閲覧することができます。三好キャンパス図書館1階で展示中です。

今号作成で使用した主な参考文献(各ページ掲載資料以外)

『調べよう!考えよう!選手をささえる人たち』1～4　ベースボール・マガジン社 2015
『まるわかり!パラリンピック』1～5　文研出版 2014-2015
『オリンピック・パラリンピックまるごと大百科』筑波大学オリンピック教育プラットフォーム責任編集 学研プラス 2017
『オリンピックの回想』ピエール・ド・クベルタン著　ベースボール・マガジン社, 1962
『パラリンピックとある医師の挑戦』漫画三枝義浩　講談社 2018
『「ニッポン」のオリンピック』路田泰直[ほか著]　青弓社 2018
『TOKYOオリンピック物語』野地秩嘉著　小学館 2013
『東京オリンピックのボランティアになりたい人が読む本』西川千春著　イカロス出版 2018
『伴走者たち：障害のあるランナーをささえる』星野恭子著　大日本図書 2008
『なでしこ力：さあ、一緒に世界一になろう!』佐々木則夫著　講談社 2011
『パラリンピック大事典』和田浩一監修　金の星社 2017
『君ならできる』小出義雄著　幻冬舎 2000

『栄養と料理』85(4-6)2019/4-6　女子栄養大学出版
『日本栄養士会雑誌』60(7)2017/7　日本栄養士会

TOKYO2020　HP　組織委員会資料
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会HP
日本財団パラリンピックサポートセンターHP
公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)HP
NHK、NewsWeb、ジャパンナレッジLib　各HP

編集後記

オリンピック・パラリンピックを“支える人”について、今回ご紹介したのはごく一部です。数えきれないほど多くの人の支えがあることを意識しながら、オリンピック・パラリンピックを楽しみたいと思います。(M)